

旭硝子株式会社 2015 年度第 3 四半期決算 主な質疑応答

広報・IR 室

【全体】

Q1. 第3四半期において原油ヘッジ評価損が大きく発生した背景を教えてください。

A1. 原油のヘッジ分は、将来の使用分も含めて期末時点で評価の洗い替えを行っていますが、原油価格が6月末から9月末で大きく下落したことにより、その分の評価損が発生しています。

【ガラス】

Q1. 欧州ガラス事業の収益回復が鈍化していますが、今後どのように収益性を改善するのでしょうか。

A1. 需給がタイトになり価格が戻ってきていることから、フロート板ガラス事業の収益は改善しています。一方、東欧からの加工ガラス製品が西欧に入ってくることにより、建築加工事業は苦戦しており、この事業への対策が必要と認識しています。

【電子】

Q1. 液晶用ガラス基板の第4四半期の見通しは前期比で出荷数量減少・価格下落幅は前四半期並みとのことですが、電子セグメント全体の損益をどのように見込んでいますか。

A1. 液晶用ガラス基板の出荷数量減少・価格下落による減益分を、他の製品で取り返すことは難しいため、電子セグメント全体として第3四半期比で減益となる可能性があります。

【化学品】

Q1. 塩ビの需要が良くないとのことですが、大規模投資が行われるインドネシアでのクロール・アルカリ事業の見通しに変更はないのですか。

A1. インドネシアの化学製品の需要は回復基調にあり、事業見通しに変更はありません。

Q2. インドネシアでの増設投資はどのようなスケジュールで立ち上がるのでしょうか。

A2. 2015年末から2016年の早い段階で立ち上がる予定です。

以 上